

国設漫湖鳥獣保護区 (國立漫湖鳥獣保護區) Manko National Wildlife Protection Area

漫湖は、渡り鳥の繁殖地として重要な地点となっていることから、昭和52年に海辺緑地を改めた約250ヘクタールを国の鳥獣保護区として指定しました。
また、平成9年には真玉橋、那覇大橋、石火橋に囲まれた約5ヘクタールの水田部分を特別保護地区に指定して、保護の強化を図っています。
最近の調査では20科70種の鳥類が確認されており、夏にはアサギサズメ、秋から冬にかけてシギ、チドリ類やカを雛が飛来し、干潟時に広がる広大な干潟では、クロツルヘラサギやスズロカモメなどの珍しい鳥も見ることが出来ます。

また、干潟に生育するマングローブ林には、鹿類の餌となるコカイやカニなど多くの生物が生育しています。
人間生活が盛んな市街地近くにある、沖縄島南部に残された唯一の大規模な干潟であり、渡り鳥たちにとって大切な越冬地・中継地となっています。
この地域では鳥や獣を撃つことは法律により禁じられています。また、鳥や干潟の生き物たちが安心して暮らしていくために、ゴミの捨て捨てなどにより川を汚さないよう気を付けなくてはなりません。
みんなでこの自然を大切に守り育てましょう。

Manko estuary is an important relay station and winter home for migratory birds. Recognizing the area's value, 250 hectares of the land and shores surrounding Manko were established as a Wildlife Protection Area in 1977. Later, 57 hectares of the water area enclosed by Madan Isahi, Naha-Uhashi, and Ishiyaya Isahi bridges were designated as a Special Protection Area.
Recent surveys have identified 20 families and 70 species of birds, terns migrate here in the summer, while sandpipers, lapwings and ducks return from autumn to winter. The rare Black-faced Spoonbill and Saunders's Gull can also be seen.
The tidal flats where mangrove forests grow are inhabited by many life forms, including lapwings and crabs that provide food for terns.
Manko estuary is the only large-scale tidal land left in the south of Okinawa Island. Catching birds and animals here is prohibited by law. As well, please refrain from littering so that birds and other creatures may continue to live in a clean environment.

臺灣黑面琵鷺の飛来の重要影響地、包括両種約地約250公頃の地帯、於1977年被指定為國立鳥獣保護區。
於了1997年、真玉玉橋、那覇大橋和石火橋圍住的約57公頃的水田部分進一步被指定為特別保護區、保護對象由鳥進一步到魚類。
根據最近の調査結果、已確認了計20科70種の鳥類、夏季燕鷗飛來、秋季冬季、燕、白鷺以及野鴨飛來、而在風浪後露出的廣大沙灘上則可以看到黑面琵鷺、綠翅等珍貴的候鳥。
同時、生息沙灘上の紅樹林植物科裡生存著為鳥類提供食糧的沙蟹、蝦等許多種類的生物。
希望貴方人們居住和生活方式的改良目前保存有沖繩島南部唯一的大規模沙灘、對候鳥則成為重要的越冬地和中繼地。
在本地區禁止打獵捕殺動物、保護鳥類及沙灘生物有一個良好的生存環境、必須防止亂扔垃圾、汚染河水等不負責任行為。

讓我們共同努力，保護寶貴的自然！

環境省 沖繩県
ENVIRONMENT AGENCY OKINAWA PREFECTURE

